

平成21年度  
霧島市「緑のカーテン」モデル事業  
シンポジウム会議録  
第11回ハートフルフェア2009 参画事業



～シンポジウムの模様～

開催日：平成21年10月25日（日）10：30～12：00 場所：国分シビックセンター

◎パネリスト

技術助言者 西垂水 武（国分中央高等学校園芸工学科教諭）  
モデル事業参加者（一般代表） 岩元 利昭  
モデル事業参加者（学校代表） 前里 いずみ（霧島小学校教頭）  
モデル事業参加者（公共施設代表） 村田 圭一（国分図書館管理図書グループ長）

◎まとめ

川畑 巧（生活環境部次長兼生活環境政策課長）

◎コーディネーター

有馬 博明（生活環境政策課主幹兼政策グループ長）

（敬称略）

一 アンケート結果について

(有馬) 緑のカーテンをし

て、ということがいいのか  
 という、温度が下がる、電  
 気代の節約、園芸の楽しみ、  
 光合成のCO<sub>2</sub>も減る、家族のふ  
 れあいにもなるということ  
 があります。

学校で調べられたものによ  
 ると、日なたで40度だったの  
 が日陰で34度、地表の温度52  
 度が30度だった。学校で緑の  
 カーテンを取り組むというこ  
 とは、単に日陰をつくるとい  
 うことだけでなく、環境学習  
 や社会科の暮らしの学習にな  
 る。光合成をしながら蒸発散  
 作用で涼しくなるということ  
 が理科の教材に、土から食物

を育てるので命の教育になる。

出来た野菜は家庭科で食育に  
 繋がる。それを学習発表会で  
 発表することで国語の勉強に  
 もなる。緑のカーテンひとつ  
 で系統的な学習ができるとい  
 うことが大きなポイントです。  
 それでは、アンケートの結  
 果を報告します。緑のカーテ  
 ンという言葉を知ってしまし  
 たかという問いに対し49%

の方が知っていました。半数  
 の方が名前を知っており、モ  
 デル事業参加者の認知度は高  
 かったです。何で知りました  
 かというのは、市の広報誌と  
 いう方が多く6割の方が広報  
 誌から情報を得ているという  
 ことでありました。それから  
 育ち方はどうでしたかという

ことで、あまりよく育たなか

ったという方が41%で、土の  
 量、肥料、水の関係が難しか  
 ったという意見がありました。  
 取り組んだ方々に温度計をお  
 配りしまして、部屋の温度、  
 外の温度を測っていただき、  
 平均したところ、屋外の緑の  
 カーテンを実施した場所が

34.1度に対して実施しなかつ  
 たところは35.6度ということ  
 で平均で、1.5度の温度差があ  
 りました。最大温度差があつ  
 た方で5度という方もいらつ  
 しゃいました。西日のところ、  
 時間的なところもあるのかと  
 思います。それでは部屋の中  
 はどうだったのか。カーテン  
 をつけていた部屋の温度が  
 31.7度、カーテンをつけていな

かった部屋の温度が32.8度と

いうことで平均1.1度、最大で  
 は4度という報告をいただい  
 た方もいらつしゃいました。  
 それでは緑のカーテンの効果  
 はありましたかという質問に  
 は、大変あつた20%、比較的  
 あつたが32%ということ  
 で、効果があるということが多く  
 ご回答いただきました。温度  
 を下げることだけでなく、環  
 境学習や視覚効果、緑のカー  
 テンのおかげで近所さんと  
 会話をするようになったとい  
 う報告もございます。栽培す  
 るのに苦労した点、分からな  
 かった点、工夫した点があり  
 ましたかということには、肥  
 料のやりかたがわからなかつ  
 た、親づるが分からず子づる

を切ってしまった、きゅうりのほうが難しかった、虫がつく、肥料の管理、水の管理、害虫対策、育て方に苦労した、横に広がらず縦に伸びてしまった、広げ方が分からなかった。工夫したところは、プランターよりも花壇に植えたほうがよく育ったとか、2〜3日留守をする時のために敷きわらをプランターに置いて水の蒸発を防いだというような事例もありました。取り組み全体の感想として、大変良かった、良かったとした人が8割いらっしやいます。これは、

緑のカーテンがもたらす温室効果ガスの抑制ということだけでなく、家族との会話や心理的な効果、ご近所のお付

き合いなどいろいろな成果をもたらしたということであると思います。来年もやりたいと思いましたがという問いには、ぜひやりたいという方が9割いらっしやいます。今回の失敗も成功も踏まえて来年度は、ちゃんとやるぞという心意気が現れています。以上、簡単なアンケートの報告でございました。

## 二 モデル事業参加者報告

(岩元) みなさん、おはようございます。それでは簡単に報告させていただきます。

家の東側、南側はコンクリートをはっておりまして条件のいいところで栽培ができないという場所で、たまたま部

屋の二階西側、西日の一番強いところを利用しました。しかしここは、車のすぐそばで砂利を敷いております。これを一回のかしまして15cmから20cm耕し、そこに腐葉土、化成肥料、石灰を入れました。そこに幅80cm高さ25cmの畑を作り、5月23日にもらった苗きゅうり、ヘチマ、ゴーヤを2本ずつ。



岩元さん緑のカーテン

若干長さがあったので間にナ

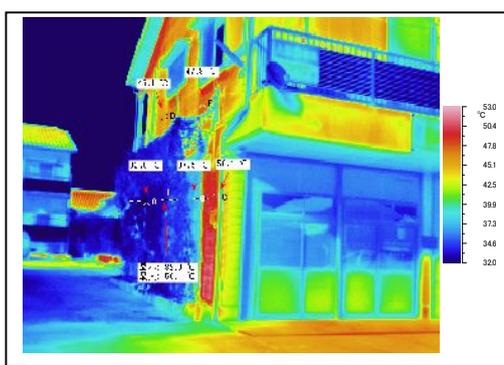
ストパブリカを1本ずつ植えました。西側の壁に長さ8メートル高さ3.5mの緑のカーテンを壁いっぱいにつけたということでございます。

6月13日3.5mの竹を4本立てまして上に針金をはっております。ビニールのところに、きゅうりネットの18cmをはっております。一般的に緑のカーテンは壁から離れたところに作り、壁に作る場合は、斜めに作るのでしょうか、車を通る関係で壁側に作ったのですが、壁が熱くなるだろうと思いい日焼けて野菜が枯れたり葉っぱが焼けるのではという心配があったので、一般的には壁の方に倒すんですが手前のほうにネットを作ったと

いうことでございます。

7月23日、ちょうど2ヶ月たった時の状態で左の方やゴーヤは良く育っているのですが、芯の通し方が悪かったのでヘチマが荒くなっています。横のほうに枝が出なかったという事です。きゅうりは思ったよりも繁っておらず、徐々に繁ってきました。始める前に本を買い見てみたら水は昼にやるな、朝か夕方にかねさい。そして追肥を2週間に1回ぐらいやりなさい。ということだったので、こまめに2週間毎に肥料をあげました。初めてだったので、思ったよりうまく具合に出来、相当収穫もいたしました。きゅうり、ヘチマ、ゴーヤ、ほ

とんど毎日収穫ができたようです。隣近所にも相当量長い間おすそ分けをしたというようになことでございます。新鮮な野菜はやはり美味しかったです。



熱赤外線カメラにて撮影

早く思いつけばよかったのですが、私の友達が熱赤外線カメラというものを持っておりまして、緑のカーテンの温度、緑のカーテンで隠れたと

ころの影の温度、緑のカーテンの影の全くない裸の温度がこのカメラで分かるという品物でございます。9月11日、夕方の4時に計っていただきました。この日は、非常に晴れたいい天気で日差しの強い日でした。外の温度は31度ござ

いしました。その結果、非常におもしろい結果が出たんですが、ゴーヤの葉っぱの温度が32度、壁が50.1度、壁の上が45.1度と47度ありカーテンの影になっているところが37.5度ありました。したがって壁の温度を平均しますと47.5度、影になっているところが37.5度ということで丁度10度の温度差がありまして私も非常にびっくりしました。部

屋の中の温度を測れる状況になかったんですが、去年からしますとだいぶ部屋の中が涼しいというのは体感できました。骨組みはそのまま残しましてぜひまた来年挑戦したいと思っております。

(前里) こんにちは、霧島小学校教頭の前里いずみです。よろしく願いいたします。

霧島小学校は今年創立130周年を迎えます。そこでおやじの会のみなさんが何か記念になることをということで緑のカーテンを発案していただきました。そして、市の緑のカーテンモデル事業というのに参加し苗をいただきました。おやじの会のほうでも別に苗

を育てていました。



霧島小おやじの会

へチマ、ゴーヤ、きゅうりの苗です。苗が育ったところで、5月31日におやじの会のほうで苗を植えました。へチマ25株、ゴーヤ25株、きゅうり25株、ひょうたん5株を30cm間隔で8株植えました。苗ごとに支えの竹の棒を入れていきます。

6月7日、支えの鉄パイプ

を1m50cmごとに取り付け  
ています。5株ごと種類を替  
えて植えているところです。  
写真を見ると分かるのですが、  
裏の方に花を植えており花の  
成長の妨げにならないように、  
1mの高さに横パイプを接続  
しました。ネットを取り付け  
るのはかなり大掛かりな作業  
になりました。収穫時には重  
くなるのではということ鉄  
パイプやロープを使い丈夫な  
ものになりました。台風時には  
取り外しが出来るというよう  
なことも考えています。1年  
生から6年生まで1階2階の  
教室を全面カバーできるよう  
にしました。もともと花壇が  
ありましたので地植えになっ  
ています。6年生の教室は玄

関の上でしたので地植えが難  
しく玄関の上に最初にプラン  
ターを置いて緑のカーテンを  
設置しました。  
6月10日の様子です。へチ  
マの成長が大変早かったです。  
7月10日、屋上まで達しま  
した。黄色い花がみずみずし  
いです。このころから、毎日  
10本以上の収穫がありまし  
た。ゴーヤが苦手な子どもも  
多かったのですが、毎日水や  
りをしたり観察をしているう  
ちに、ゴーヤを持って帰った  
いとこの声が多く聞かれまし  
た。子どもたちにも配布し、  
持って帰りました。これは内  
側から見たところです。上の  
方は高ばさみで収穫したので  
すが、採れないところは大き

くなりぶらさがっている様子  
がよく分かります。だいぶ、  
間の間隔がありますので通路  
も涼しく教室内も涼しかった  
です。  
8月21日、出校日に気温を  
測った結果、室外が31.5度、室  
内が30.2度でした。体感温度は  
もっと涼しく感じました。  
9月10日、全面に生い茂り  
涼しい風を作っている様子が  
分かります。玄関ひさしに設  
けたプランターは地植えに比  
べるとやはり成長が遅かった  
です。途中、追肥をすること  
により活性化を図りました。  
10月11日の撤去まで毎日  
毎日大収穫がありました。夏  
休み中、プール監視の保護者  
の方に配布したり、地域の方

に配布したり、学校へ訪れる来校者の方に配布したりし大変喜ばれました。



霧島小緑のカーテン

2階教室内から見た緑のカーテンの様子です。多くなっているヘチマの様子がよく分かると思います。収穫をせず長さを楽しんでいる子どもたちもいたようです。涼しく快適な環境で学習することが今年の夏は出来ました。

これは、緑のカーテンに奮闘した霧島小おやじの会の熱い面々です。以上で霧島小おやじの会の緑のカーテンの取り組みの発表を終わります。ありがとうございました。

(村田) みなさんこんにちは  
は 国分図書館で取り組みました例を報告させていただこうと思います。



図書館南側「お話の部屋」外側

去年も取り組もうという話があったらしいのですが、まずに、今年から初めて取り組んでみました。図書館はいろいろな方が利用されるのですが、冷房の効きが悪く何とかしようということで取り組みだどころです。

まず、この場所が道路の南側に面している児童用の閲覧室の中にある、お話の部屋というところ。ここで2歳児3歳児の子どもたち、一緒に来られる保護者の方に紙芝居とか絵本の読み聞かせをするんですが、見ても子どもたちが汗を流したり一緒に来ている保護者の方も暑そう。でボランティアの方も「本当に暑そうだね。何とかしな

いとイケないね。」ということから始まったということです。自分たちの方針は無理をしないで、自分たちで出来ることからしようということで取り組みだどころです。

ネットはきゅうり用のネットを使い、これが18m物で500円しなかったです。あと1枚小さいネットを買いましたがネット代だけでだいたい700円。あと支柱を2本買、これが300円程度。だいたい1000円程度かかっております。鉢、土、追肥などは職員が家にあるものを持って来たので実際かかった費用は1000円程度ということになります。鉢は直径30cm高さが25cmのプラスチック

の鉢です。だいたい 50 cm から 60 cm 間隔で置きました。種に関しては担当課の方から袋に入ったものをいただきました。あとで苗も、ヘチマ、きゅうり、ゴーヤを 2 株ずついただきましたが基本的に種から育てました。種をまいて非常に驚いたことがあったのですが、人間にも個人差があるように植物にも個人差があり、例えば 2 週間で芽を出す苗もあれば、1 ヶ月経ってようやく芽を出す苗もあり非常に驚いたことでした。

続いて、7 月 1 日に撮影したものです。長いもので 3 m くらいでしょうか。この頃に親づるの先端を 30 cm ほどカットしました。

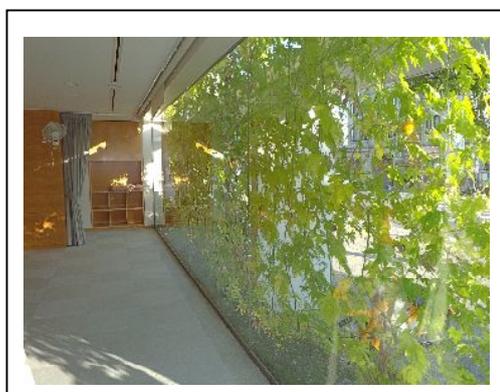
7 月 14 日鉢植えしてから 9、10 週目頃の状態です。親づるの先端を切ったからか横に伸びているのが分かるかと思えます。

そして個人差がある 1 ヶ月経ってから芽を出した、苗で作った緑のカーテンです。同じ時期に種を蒔いたのですが奥手の苗なのでしょう。それでも適当に育ってくれました。

これが 7 月 30 日に撮影した 1、2 週目ぐらいの苗です。霧島小学校の方々には敵わないと思います。それなりに育ってくれたのではないかなと思います。

9 月 10 日に室内から撮影したものです。撮影時間が 17

時 18 分ということ。右の方から強く西日が射しているのですが、それを 1 ヶ月目に芽が出た緑のカーテンがなんとか日陰を作ってくれています。真ん中には順調に育った緑のカーテンがあります。



図書館南側「お話の部屋」内側

これはお話の部屋を中の方から撮った写真です。左上には夏場活躍してくれた扇風機が見えると思います。この扇風機は実際 10 月の中旬まで活躍してくれました。通常、強で回るところがカーテンのおかげで中あるいは小で回ったということです。同じく 9 月 10 日に少し離れたところから撮影してみました。

私たちは影が出来て涼しければいいなということで取り組みをさせていただきました。最後に職員の感想を述べさせていただきます。この報告を終えたいと思います。

育てる楽しみがあつてよかった。部屋の中が涼しく感じました。利用されているお客さんとゴーヤのことについて話ができよかったです。利用者の方から前年より涼しいと声をかけていただいた。また、館

長が子ども連れのお母さんに具体的に言われたらしいんですが「図書館で野菜の育つ様子を見るのが出来、本当に良かったです。」というような声を聞かせていただいたという事でした。

終わりに、今年職員が全員緑のカーテンに取り組めて良かった、来年もまたやってみようという話になっています。来年は図書館に本の利用もですけど、もう少し良く育った緑のカーテンを見に来ていただけたらなと思うところです。10月7日に大型で強い台風がくるということで撤収する前に撮影したものです。少し黄色くなっております。ということで国分図書館の取り組み

みの報告を終わります。図書館の利用もですけど、緑のカーテンも見に来ていただけたらと思います。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

### 三 技術者助言

(西垂水) 国分中央高校の西垂水です。野菜を担当しております。何か少しでもアドバイスができればと思っております。先ほど3名の方が実践報告ということで、おもしろく見させていただきました。ありがとうございます。アンケート結果では半分の方がうまく育たなかったという事でしたが、成功例とい

うことでみなさん役にたつたのではないのでしょうか。岩元さん、前里先生の2つの例ですが、あんなにきれいに出来たというのは鉢やプランターに植えたのではなく地植えされたのが一番良かったのではないかと思います。あとプランターでする場合、普通の16ℓのプランターに2株くらいが適当ですが、図書館の前の方は、鉢ひとつの容量、8ℓに1株ということで、この苗の水と土の容量もちょうど良かったのではないかと思います。ただ水をかけるのが大変だったのではないかと思います。どの例もきゅうりがうまく出来なかったという事で、岩元さんのお話にもありまし

たように、2週間に1回ぐらいは追肥をしたほうが良いという事で実践されました。「きゅうりは水と肥料で作りなさい。」と言われるぐらい結構水と肥料が必要なので、追肥の間隔をもう少し狭めてもらえればいいのかと思います。そして葉っぱが黄色くなってくる現象ですが、病気が外で3つぐらい考えられることがありまして、水が足りない、肥料が足りない、あとは自然に成長していくと実を採り終わったところの葉っぱが、だいたい役目を終えて下の方からだんだん黄色くなっているの、その3つのうちのどれなのかなと思います。それから病気にかったという可

能性もあるんですが、だいたいゴーヤもヘチマも病気に強い品種で、きゅうりに関しても高校で用意した苗はおいしいというより病気に強いきゅうりをいくつかご用意させていただきました。おそらくさつき言った葉っぱが黄色くなつて枯れてきたというのは、肥料か、水か、役目を終えたかの3つかなと思います。だいたい2ヶ月から4ヶ月にかけて大きなカーテンが出来上がったようですが、大規模なカーテンを作ればやはり路地植えのほうがちょっと水やりを忘れても結構うまく出来るのでそっちのほうがおすすすめかなと思います。プランターの場合は小さいほど大きくなり

ません。ヘチマの場合、路地で栽培すると親指より太くなるくらいでてくるのですが、プランターの場合、小指ぐらいで根の太さも変わってきます。やはり土の中の根の広がりとの広がりは比例するので、根を大きく張ってあげると上のほうに伸びていくのではないかと思います。そのあたりも考えて実践されてみたら良いのではないかと思います。あともうひとつ、ツルの切り方ですが、個人的にはだいたいどのツルも切ってしまう方がいいのではないかと思います。先ほど霧島小の例によると、花の成長の邪魔にならないように1メートルまでは親づるを摘まなかったとい

うことで、ある程度伸ばされて親づるを摘みましたら各葉っぱの根元から新しい芽がどんどん出てきたということでしたが、それで横に扇形に広げていけばいいんですけど、まだ広げたいという時は出てきた子づるもちよつと大きくなってから摘んでいくと、子づるから守れということでもっと葉っぱが広がっていきま

す。広く横にされたいという方は、肥料のタイミングの間隔を狭めたり水やりも多めにしていたただかないと、その葉っぱの枚数が増える分要求量が増えてきますので、またそのあたりも試されていただけたらと思います。簡単ではありましたが今3つの例を踏まえてのコメントということで、また何かありましたら質疑応答の時間にお受けしたいと思います。

#### 四 質疑・応答

(会場参加者) すごく参考

になりました。うちはプランターに植えたんですが、いまお話を伺ってこの大きさが露地栽培に比べて細いということを聞き、そうだなと思ったのと、プランターのものとは保水力が地植えのものとは違うので一日お水をあげないだけでも元気がなかったのだから、もう少しお水をたっぷり、肥料をやる期間を狭めてあげたいと思いました。すごく参

考になりました。ありがとうございます。ございました。

**(会場参加者)** 私は数年前

にオーシャンブルーで試してみたんですが、だいぶ大きくなりまして我が家は2階建てなんですが、ある晩、突然大きな音がして1階の洗濯干し場のところにドーンと何か落ちてきました。そしたらへびだったんです。今までそういうことはなかったので多分オーシャンブルーの壁をつたってきてすずめを狙ってきたのかなと思うんですけどきゅうり、へちマの場合、そういう心配とか事例とかないものかと思ひまして。

**(西垂水)** 学校でも緑のカー

テンを作ってみたんです。10のプランターと比べてしてみたのですが、アンケートをとってみると女子クラスで虫が多かったという意見がありました。ただちよつと動物関係の件は確認がとれておりませんが、へちマとゴーヤがカー

**(私里)** 普段もいるのでそんなに感じなかったです。

**(岩元)** いい機会ですのでひとつお尋ねしたいのですが、

先ほどから芽をとめるというお話があるんですが、へちマについてですが葉っぱのところから横に芽が出てきて、どんどん伸びるんですがどのへんで切つていいか分からず、どんどん上にいって下が少し粗くなつてしまったというようなことがあります。そしてきゅうりもですが高さでいえばどのあたりで切ればいいのかというのを教えていただ

**(有馬)** 今の質問に対してな

にかありましたら、霧島小学校はどうでしたか。

**(西垂水)** 芽を摘むという話

ですが、芽を摘むとなんでツルが出てくるかという上、上に伸びられなくて葉っぱを増やしたいから別のところから出していくということです。

高さは前、手元にも資料があるとありますが50cmぐらいかなと、ネットに届くくらいにはもう親づるを切つていいのではないかと5月に話したところでした。親づるが伸びなければほかのところを伸ばさないと植物は生きていけないと伸びていくものですから、それをうまく利用してですね、やはりあんまり伸ばしすぎると手が届かなくなるので自分

の手の届くところで摘んでいただければ。摘まなければ上にひたすら伸びて行ってカーテンというより細かいすだれのようになつてしましますから、広げたい場合は自分の身長を超える手前までにしていただければいいと思います。

**（会場参加者）** 今まであさがお、ゴーヤ、ヘチマ、きゅうり、ひょうたんを植えてきたんですが鹿児島に、はやとりという発育の強い野菜なんです。安すぎて採算が合わないのか、野性化して山の中にある。これはすごく生命力が強く実が落ちてそれが一冬越して翌年春になると芽を出している。あれを緑のカー

テンにしたら。それとも繁殖しすぎて管理が難しくて手をつけられないのか、過去の経緯の中でなぜはやとりが目がむけられないのかという理由を教えていただきたいのですが。

**（西垂水）** はやとりは私も考えましたが、ゴーヤやヘチマと比べると時期がだいぶあとで日差しのちょうど強い時期に緑のカーテンが出来にくい、今またあちこちできれいな花ができる頃だと思っのですが時期のずれというのがあって私も断念しました。確かに実がたくさんなつてお漬物にもいいのですが一般の方のいろいろな食べ方をご存知な

いということも広まらない原因のかなと思っております。

**（会場参加者）** 私の実家は喜入町というところで裏山が低いのですが、そこで落ちたものがほとんど休みなく芽が出ていて、はやとりも野生化して強いですからそういうことが出来るのか、霜さえあわなければ最初の種付けを早めて4月の段階で伸びさせたら良いのではないか。千貫平の姿を見てたら1年中繁殖が可能であることは分かります。それから食べ方ですが、油炒めにしたたり漬物ですが、これはもともとアメリカの野菜でアメリカでは中をくり抜いて肉や海老を包みオーブンで焼

く、これはマントラスとい大変有名な料理の方法もあるわけです。ですから栽培の時期の問題についても一度よく考えてほしい。千貫平の姿を見ていたら冬でも耐える力があると思います。もうひとつ、漬物とか油炒めだけでなく若い人向けの料理を考えていただければ。はやとりという言葉が日本に広がれば鹿児島を盛り上げるために話題つくりとして広まっていけばいいなと思います。

**（有馬）** 考えてみれば10月ぐらいまで西日が強いという家庭もあるわけで、また来年度是非検討させてください。隼人町がある霧島市で、はやと

うりの緑のカーテンなんて霧島市らしい取り組みとなりそうですね。でもおもしろいと思います。ありがとうございます。

**(会場参加者)** 今度はヘチマやきゅうりで試してみたいと思います。岩元さんにお尋ねしたいんですが、岩元さんのお宅の壁面を見ると支えの棒を付けてらっしゃるみたいですが重量で倒れたように支えをされたんですか。

**(岩元)** 西側の壁にちょうど電線の入ったパイプがあったので、60cmから65cmぐらいの木に穴をあけ、直接針金で電線の管にくくりつけました。さらにこの木を竹にくくりつ

けて斜めにつくったところですよ。

**(有馬)** それでは来年また、はやとうりという新しい可能性を見出して、おまけにヘビまでやってくると、生物多様性の緑のカーテンを目指しながらやっていきたいと思えますけど、ここでまとめのほうを次長にお願いして終わりにしたいと思います。

**(川畑)** 私も緑のカーテンを試みたんですが、まずきゅうりがうどんこ病にやられてすぐだめになり、そしてヘチマはひょうたんみたいなもの。が今でもなっております。そういう意味で非常に難しかった

たと思います。ずいぶん考えてやってみたんですが、見事に失敗を楽しめました。来年はやりがいがあります。岩元さんにしても温度差が10度。10メートル<sup>0.6</sup>度としてえび

の高原ぐらいの温度差がある。すごいことだと思います。そして小学校にしてもすごい本数です。すごいと思います。私も市役所の職員です。毎朝、図書館のきゅうりを見てあのきゅうり食いたいなと思うところでした。私はよく湧水町に行くんですが、大きなタブの木があったりし、そこで自然教室学校があり、私が何を言いたいかと申しますと、あの木漏れ日、時にはあの陽だまり、そして時には緑のカー

テンを守りたいと思っております。都会の子どもたちは自然教室学校に行く前は嫌だと言うらしいです。どろんこになるのも嫌だし、何するのもしゃだ。ところが、帰る頃は非常に楽しんでるみたいです。ですから自然教室学校の竹中さんはそういう意味で、「緑のカーテンもどんどん普及していかないといけないよ。」とおっしゃっていました。アンケート結果の表紙をご覧ください。保育園の園児たちがきゅうりを見てどうしてとげがあるんだろうという表情をしております。また、市では小学校四年生に我が家の環境大臣として任命しております。子どもたちのこの学習意

欲をさらに伸ばしていきたい  
と考えております。鹿児島県  
では緑のカーテンの審査基準  
というのがありまして、まず  
第一に地域特性、先ほど、は  
やとうりができましたけれど、  
そして独自性、工夫がされて  
いるもの、そして発展性、地  
域への広がり、そしてCO<sub>2</sub>削減  
効果、そして最後には基本学  
習の発表、活用度。環境学習  
の取り組みがなされているも  
のを推進していきたいという  
形で鹿児島県の緑のカーテン  
コンテストの審査基準にあり  
ます。そういう意味で私も失  
敗しましたけれど環境管理、  
そういう活動をしていきたい  
と考えています。あまりまと  
めになりませんが以上

で終わりたいと思います。

(終わり)